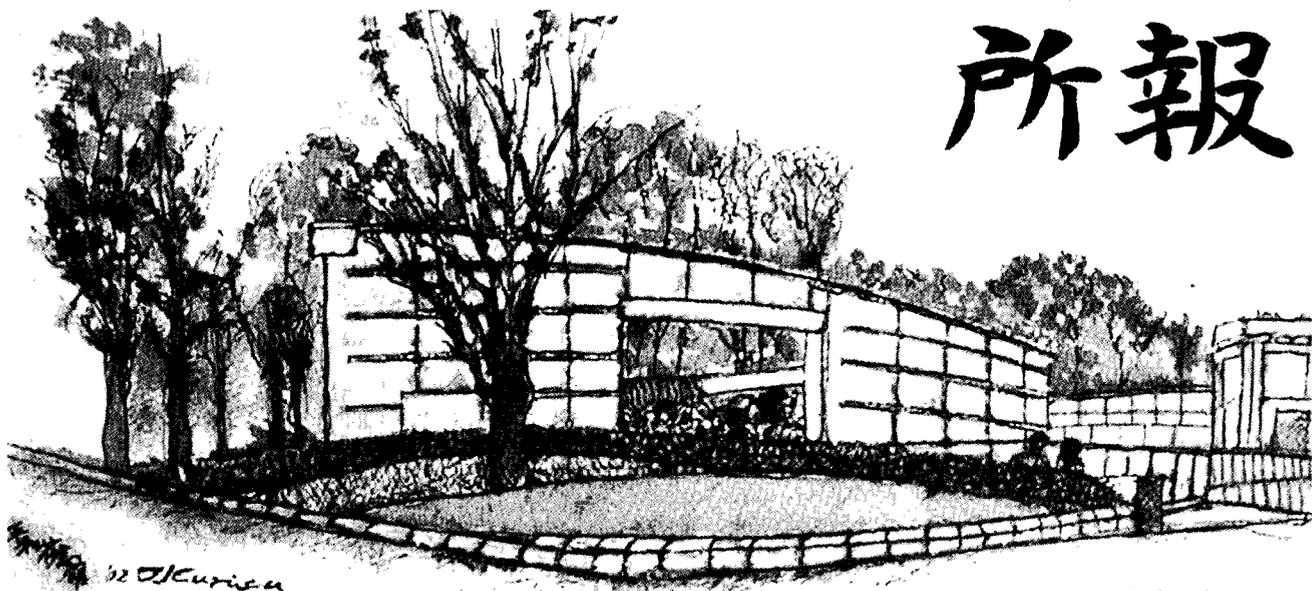


所報



平成14年10月



リアルな人間認識と多面的な教育観を

早稲田大学教授 安彦忠彦

新学習指導要領に基づく教育が今年度から始まり、種々の大きな改革を伴っているために社会的に論議が盛んである。しかし、全体として今回の学習指導要領は「子ども」の側に立って、「学習負担の軽減」や「ゆとり」というものによって「生きる力」を育てようとしたものだと思われられている。「子ども」、「体験」、「意欲」、「問題解決能力」などという言葉がキーワードとして繰り返されているのを見ても、それが分かる。また、生命や人権を尊重する心など基本的な倫理観の育成などの観点から「心の教育」が強調されていることも注目される。

しかし、その結果、「知育」は相対的に強調されていない。それは「詰め込み教育」や「受験教育」の弊害への反省から、教育内容を「厳選」し、「量から質へ」学力観を転換して、「記憶」重視から「思考」重視へと考え方を換えれば問題はないとされているように見える。この「方向」に異論はないが、「方法」には問題がある。最もよくそれを示すのが、思考重視の教育をしても知的技能は身につくという考えにある。だが、これは一面的な見方ではないだろうか。

実践家は自分の実践からよく考えてほしい。「考える」だけで「読み書き」の技能が身につくだろうか。もし「考える」だけで「文字が正しく書ける」ようになるのであれば、そんな楽なことはない。現在の指導的教育研究者は、それが可能だという。もちろん、そういうことのできる子どももまったくいないわけではない。しかし、決してその数は多くない。

もう少し丁寧に子どもの学習や教育を見てみよう。人間の子どもはそんなに単純な学習をしていない。また子ども中心の教育だけでは子ども自身も満足しない。ある部分では子ども自身が大人にしっかり教えてほしいと求めているところがある。このような子どもの姿を念頭に、もっと子ども、さらには人間をリアルに認識し、教育も多面的に考え、方法を目標に応じて複数用意し適切に組み合わせなくては、効果的な教育は実現しない。たとえ、どんなに立派な学者の論であっても、もう観念的な唯一絶対の教育論が通用する時代ではなくなったことを、教育を論ずる者すべてが深く認識すべきである。

もくじ

○巻頭言	P.1	○研修講座だより(2)	P.5
○共同研究 (総合的な学習の時間)	P.2	○教育関係資料の紹介	P.6
○共同研究 (情報教育)	P.3	○シラバスの作成手順と作成例	P.7
○平成13年度教育実践校・園の取り組み	P.4	○教育センターひろば	P.8

総合的な学習の時間

「総合的な学習の時間」における児童生徒の学習状況の評価に関する研究

教育センター主任指導主事(事)主任 松浦俊雄
 教育センター主任指導主事 井坂雅浩
 教育センター指導主事 堂道雄

各学校では、「総合的な学習の時間」の試行を通して、子どもの課題づくりやテーマ設定の在り方等を探っています。今後はどのような力を子どもたちに育成し、それがどのように育成されたかを判断する評価の拠りどころになるものを追究することが、緊要な実践課題と考えられます。そこで、児童生徒の学習状況を評価していく際に必要な、評価規準及び評価のめやすについて具体化できたことを紹介します。

1 評価の考え方

教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(平成12年12月4日)や『小学校学習指導要領(平成10年12月)解説—総則編—』及び『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説—総則編—』に記載されている「総合的な学習の時間」における児童生徒の学習状況の評価の考え方は、次のように整理することができます。

- 「総合的な学習の時間」についての各学校の具体的な目標、内容に基づいて、観点を定めて評価を行う。
- 学習の状況や成果などを、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて評価し、数値的な評価をすることは適当ではない。
- 学習の過程に沿った自己評価や相互評価を通して、自らの学びを創造する力を養う。
- 課題についての今後のかかわり方を考え生き方を探るための多様な評価方法を工夫する。
- 児童生徒の個人内評価も行って、全人的な育ちとしての児童生徒の育ちを評価する。

「総合的な学習の時間」における評価の考え方においては、とりわけ、観点を定めて評価するという点に留意する必要があります。

観点を定めて評価を行うためには、各教科等における観点別評価と同様に、その学習活動によって、児童生徒にどのような力を育てようとするのかという目標を明確にしておくことが必要です。同時に、それは具体的な評価の観点とそれに対応する評価規準を基に、個々の児童生徒の活動の様子や多様な評価資料を見ていくことにより、それぞれの観点における一人一人の学習の状況や成果、よい点、進歩の状況等が明らかになるのであり、そのことにより、指導の改善をより適切に図ることが可能となります。

2 評価の観点と評価規準及び評価のめやす

「総合的な学習の時間」のねらいから「よりよく問題を解決する能力」という観点で、どのようなことについて評価するのかという「評価規準」の例と、達成の状況を判定するよりどころとなる「評価のめやす」の例を考えました(表1)。

表1 「総合的な学習の時間」のねらいから設定した評価の観点と評価規準及び評価のめやすの例

評価の観点	評価規準の例	評価のめやすの例
よりよく問題を解決する能力	・身近な地域や自然の文化等から自らを導き出した課題を具現化したことである。	①自らよりよく解決した課題を自らで設定している。 ②理解された課題の中心を、自分の得意な課題を構築している。 ③自らよりよく解決した課題を具現化している。
自らができる活動を実行するための意欲や計画を立てることが出来る。	・計画的に活動を進めたり、計画を完成させたりできる。	①課題達成のための具体的な方法が共通してある。学習の計画を立てている。 ②課題達成のための方法を、それぞれが学習の計画を立てている。 ③自らができる活動を実行するための方法を考えたり、計画を立てたりしている。
学習の過程や結果を振り返ることが出来る。	・学習の過程や結果を振り返り、成果や課題について述べている。	①学習の過程や結果を振り返り、成果や課題について述べている。 ②学習の過程や結果を振り返り、成果や課題について述べている。 ③学習の過程や結果を振り返り、成果や課題について述べている。
学習の結果を活用したり、発信したりすることができる。	・学習の結果を活用したり、発信したりすることができる。	①学習の結果を活用したり、発信したりすることができる。 ②学習の結果を活用したり、発信したりすることができる。 ③学習の結果を活用したり、発信したりすることができる。

具体的な児童生徒の姿としてのめやすを示すことにより、児童生徒の学習状況の客観性と信頼性が高められると考えられます。

3 評価の方法

評価の方法については図1のように「ふれる」「つかむ」「調べる」「まとめる・つなぐ」の各学習段階において、教師による評価、児童生徒による評価のそれぞれに、観察による評価、具体物による評価、自由記述による評価、面接(面談)による評価などから適切な評価の方法を選択したり、適宜組み合わせたりすることが大切になると考えます。

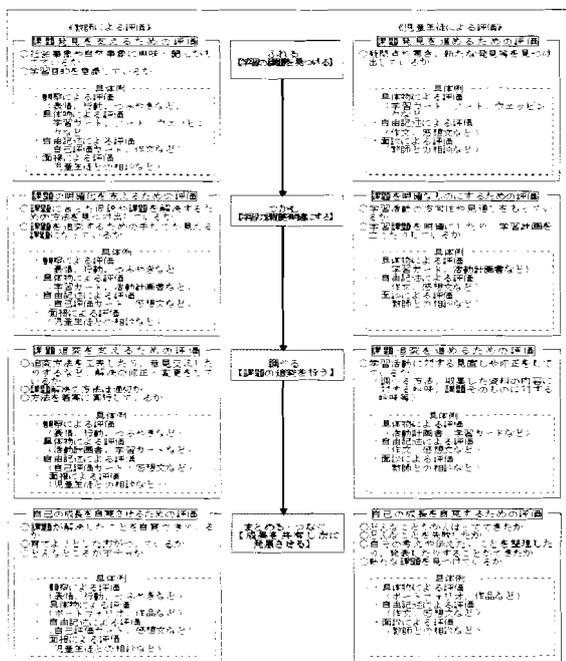


図1 「総合的な学習の時間」の各段階における評価の方法

評価を行う上で、学習の結果だけでなく過程を含めて評価していくことが重要であり、児童生徒の学習状況の中から、どのようなものが見方や考え方ができたか等を継続的に見取り、評価することが大切です。

※ 詳細は、『教育センター研究紀要第22号』をご覧ください。

小・中学校におけるインターネットの活用に関する研究（Ⅲ）

教育センター指導主事 住 吉 磨
教育センター指導主事 水ノ上 俊一

インターネットの教育利用に関する本研究では、第2年次での授業実践をさらに発展的に扱い、テレビ会議システム等を用いた交流学习に重点をおいて授業実践に取り組みました。また、将来のネットワーク環境を想定し、ネットワーク提供型の教育用コンテンツの在り方を整理しました。ここでは、その研究内容の一部を紹介します。

1 交流に視点を当てた授業実践

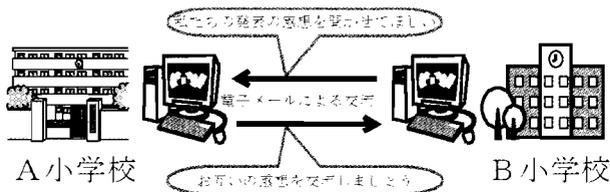
インターネットを活用した交流学习を行う場合に大切なことは、お互いに学び合える交流学习となるように次の点に留意する必要があります。

- インターネットの特性を生かす。
- 交流学习のテーマを明確にする。
- 相互に学び合える交流学习にする。

研究協力校の小学校2校では、事前に担当教師が打合せ会を実施し、総合的な学習の時間の中でこの留意点を踏まえた交流学习を計画し実施しました。

交流の流れ

①交流が始まる。



②テーマを決定する。

「〇〇小学校の取り組みを応援しよう。」

③記念行事での発表のビデオと手紙を交換→視聴する。

④感想を話し合いまとめる。

⑤テレビ会議システムを用いた交流授業を行う。

⑥交流学习の感想をまとめる。



この交流により、児童は発想が広がり、新たな課題を見つける手がかりを得ることができたようです。

また、インターネットを活用した交流学习を行う際の、コーディネーターとしての教師の役割についても整理することができました。

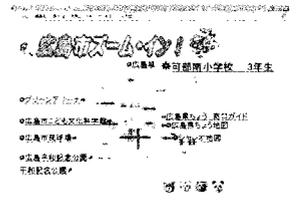
2 インターネット上の地域素材の活用事例

インターネットを授業に活用するには、教師があらかじめ有効な素材を見出し、児童生徒の情報活用能力の実態に合わせて、リンク集を作るなどを工夫するこ

とが大切です。

研究協力校A小学校では、広島市の地下街「シャレオ」や周辺の地域に関する Web ページを活用して、自分たちが暮らしている広島市の様子を調べる学習を3年生が行いました。

児童の実態を考慮して、教師があらかじめリンク集（右図）を作成し、学習のねらいに即した情報検索ができるようにしました。



さらに学習プリントを工夫

することにより、情報を読み取るための視点を与えることができ、地域学習のまとめとして効果的な学習を行うことができたようです。

3 教育用コンテンツの整備

インターネットの利用環境の進歩はめざましく、高速大容量化が進みつつあります。学校においても校内LANの整備が徐々に取り組みられ、近い将来普通教室からもインターネット利用が可能となります。

このインターネットの利用環境を授業で生かすためのものとして、ネットワーク提供型の教育用コンテンツの整備が急務であると言われています。

平成13年8月に国立教育政策研究所が、教育情報ナショナルセンター(NICER)のWebサイトを立ち上げました。日本全国から教育用コンテンツを収集し、体系的に整理することで、インターネットの授業での活用を促進しようとするものです。

しかし、実際の授業では地域素材を活用した学習場面が多く存在します。この点で、地域の自然、社会、人など、地域の特性を生かした教育用コンテンツの整備を図ることが重要となります。

地域で整備する教育用コンテンツの内容としては次の2点が考えられます。

- 地域の特性を生かしたその地域ならではの学習教材
- その地域で積み重ねてきた統計資料等のデータ

これを踏まえて、教育センターの教育用コンテンツの整備の方向性は、次の5点が考えられます。

- 個人や学校等で開発されてきた教育用コンテンツを収集整理する。
- 研修講座の内容のコンテンツ化を図る。
- 企業や大学等との連携による教育用コンテンツの開発をする。
- 学習指導案、実践事例等のデータベースを公開する。
- 教育情報リンク集を整備する。

※ 詳細は、『教育センター研究紀要第22号』をご覧ください。

平成13年度広島市立学校教育実践校・実践園の取り組み



教育センターでは、平成13年度において総合的な学習の時間や幼稚園教育に係る研究を支援しました。それぞれの学校・園で取り組まれたことを紹介します。

※ 詳細については、教育センター Web ページに掲載しております。

総合的な学習の時間の授業づくりと展開

—ポートフォリオ評価を生かした学習指導法の研究—
原南小学校

総合的な学習の時間における評価については、どのような目標を立て、どのように評価するか明確化されていない現状にある。そこで、評価の目的や方法、観点や規準・基準を明らかにし、指導と評価の一体化を実現するために、ポートフォリオに主眼をおき、学習状況の「確認」「調整」という点と学習価値を認める評価活動という点の二つの観点から評価の在り方を探った。本研究から児童の学習状況を把握することができ、どのような支援が有効か確認するとともにその充実のための方法を具体化することができた。

たくましく生きる力をつける総合的な学習の時間の創造

—豊かな体験を通して— 五日市中央小学校

地域の青少年育成組織やボランティア等と連携して環境や福祉についての学習を展開する中で、児童の課題追究のための豊かな活動を保障する支援の在り方を探った。

意見交流の場で児童の思いを引き出す教師の問いかけや児童の主体的な追究活動を促すガイドプリントの工夫等が効果的であった。また、地域ボランティア等の協力により、児童の追究活動への支援を充実することができ学習への広がりや深まりが見られた。

一人一人が生き生きと活動し、お互いを認め合い、探究する子どもの育成

—生活科・理科・総合的な学習の時間を通して— 矢野西小学校

生活科、理科、総合的な学習の時間の活動を通して、児童が自分の生活や自然体験、社会体験の中から思いや考えをもち、自らが学びを組み立てていく力を育成するための支援の在り方を探った。

個々の目標を設定し、友だちとのかかわりの中で自分の活動を振り返り、修正や発展を行うための場の設定を工夫することで、子どもは学習意欲が持続し、達成感や満足感を味わうことができるなど、実感をともなった理解を図ることができた。

「生きる力—主体的に考え、判断し行動する力」の育成

—総合的な学習の時間における地域学習を通して—
牛田中学校

第1学年は「牛田再発見」、第2学年は「ええじゃろ広島」をテーマに、「自然・環境」「文化・歴史」「人・もの」「国際理解」「福祉・人権」などの視点から自分のかかわり方について追究する学習を展開した。対象地域を、第1学年では牛田、第2学年では広島市全域へと段階的に広げ、1年生は2年生の昨年度の学習を参考に、2年生は昨年度の学習経験を生かし、地域再発見のみならず、自分再発見にもつながる実践となった。

総合的な学習を目指した体験的な学習の進め方

矢野中学校

「総合的な学習の時間」実施に向けて、従来から取り組んでいた体験学習を発展的に扱い実践した。地域の事業所での職場体験学習では、緊張しながらも熱心に行うことができ、複数の事業所の体験をしたいという感想が多数寄せられた。先輩が進学した上級学校の学校訪問では、調べていくうちに改めて受験可能な高等学校数の多さに気が驚いていた。生徒が能率よく活動する部分や時間を要した部分などの実態を把握することができ、次年度以降の参考資料を得ることができた。

豊かな心をもち、共に育ち合う子どもの育成

—家庭との連携を通して— 大町幼稚園

基本的生活習慣に関するアンケートを実施し、家庭での幼児の実態や保護者の考えを知り、課題を明らかにするとともに、保育実践を通して具体的な保護者への支援の方法等について探った。その結果、個人データを基に保護者への具体的な支援の手がかりを得ることができた。

保護者に要求する支援ではなく、保護者の立場等に寄り添い、保護者自身が我が子の成長や課題を感じ取り、どうすればよいかを考える機会を設けるという支援の方法が効果的であることが分かった。

研修講座だより (2)

7・8月に実施した研修(一部)の概要をまとめました

新規採用教員研修講座

講座の主題

私の自己実現とその歩み

講師

野球解説者 村田 兆治

講座の概要

今年度の新規採用教員研修講座には、51歳にして時速142kmのストレートを投げる野球解説者、村田兆治さんを講師に招き、「人生 先発 完投」という演題で、野球(人生)に対する考え方をお話いただきました。

村田さんは、三球三振、81球で完封勝ちをおさめるという究極の目標をもちマウンドにあがられていたそうです。最初から最後まで同じ球を投げることに、それがいかに難しいか、また、それを実現するために何が 필요한のか、何をすべきなのかを考え、野球に取り組んでこられました。そこにプロ野球の投手として村田さんの「哲学」があります。フォークボールで勝負する村田さんにとっては暴投148個の日本記録も誇りであるそうです。たとえワンバウンドになっても勝負球はフォークボール。他のボールを投げて打たれると悔いが残る。自分らしい野球人生を志向して自分の全精力を注いで取り組まなければ、充実感をもつこともできないし、仕事に対して誇りをもつこともできない。これも村田さんの「哲学」です。

このように自分自身の「哲学」と誇りをもち野球に取り組んでこられた村田さんだからこそ、右ひじの大手術から、3年のブランクを経て奇跡の復活を遂げることができたのではないのでしょうか。

参加者にとって、どこまで自分の哲学をもち仕事(教育)に取り組んでいるのか、その前に自分の(教育)哲学とは何かを振り返ってみるよい機会となったようでした。



障害児教育課題講座

講座の主題

注意欠陥/多動性障害(ADHD),高機能自閉症等の理解と対応

講師

中央大学教授 上林 靖子

講座の概要

通常の学級における注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等の特別な支援を要する児童生徒への教育的支援が求められています。そこで本年度は、主にADHDの理解と対応について、中央大学教授の上林靖子先生からお話を聞かせていただきました。当日は、広島平和記念資料館メモリアルホールに約300名の先生方の参加があり、上林先生の話に熱心に聞かれていました。上林先生は、児童精神科医でもありますので、ADHDについて医学的な側面から詳しく、そして分かりやすくお話をしてくださいました。ADHD児への対応について保護者向けに実践されているペアレントトレーニングについても紹介されました。

『注意欠陥/多動性障害(Attention Deficit Hyperactivity Disorder)』

脳の生物学的障害であり、その特徴として不注意が多かったり、衝動性や多動性がみえたり、またそれらが混合していたりする。ADHD児については、学習や仲間との活動でトラブルに発展することもあり、周囲の人から理解されにくい。しかし、ADHD児がもめ事の原因なのではなく、ADHD児本人は困惑し、自尊心を失うことが多いので、それに配慮した支援が必要である。

『ペアレントトレーニング』

教師や保護者が子どもの行動を3種に分けてそれぞれに応じた対応を学んでいくプログラム。具体的には、「してほしい行動」には「ほめる」、「してほしくない行動」には「その行動を無視する」、「許し難い行動」には「断固とした態度で制限を設ける」等、してほしいことを子どもに教える方法と、子どもがそれを実行するのを支援する方法を学び、子どもとのよりよい関係をつくることをめざしている。



教育関係資料の紹介



購入図書を紹介

教育センターでは、各学校等における教育活動等を支援するため、教育関係資料を計画的に収集・整備しております。
今年度購入した図書の一部を紹介します。

平和教育	絵で読む広島原爆	那須正幹 他	福音館書店
教育一般	シリーズ 新しい授業を創る 授業で成長する教師	藤岡完治 他	ぎょうせい
教育心理学	心理療法入門	河合隼雄	岩波書店
人権教育	幼児期からの人権教育参加体験型の学習活動事例集	ラルフ・ベットマン 他	明石書店
教育法規	最新教育法規質疑応答集	教育法規研究会	ぎょうせい
学習指導法	「総合的な学習の時間」創造のための基礎・基本	梶田毅一 他	文溪堂
国語科教育	評価で変わる国語の授業	尾木和英 他	三省堂
社会科教育	中学校社会科授業のリ・デザイン 新しい授業づくりと絶対評価	長谷川浩 他	東洋館出版社
算数・数学科教育	数学的活動を楽しむ授業づくり	齋藤 昇 他	明治図書出版
理科教育	中学校「選択理科」の特選教材 120と展開例	三輪洋次 他	明治図書出版
音楽科教育	中学校・高等学校 音楽科教育法概説	音楽教育研究協会	音楽教育研究協会
図画工作・美術科教育	新しい時代の学力づくり授業づくり中学校美術科編	遠藤友麗 他	明治図書出版
家庭科教育	多様な指導法で学び方を創る小学校家庭科	水野香代子 他	明治図書出版
体育・保健体育科教育	子どもの体と心が弾む体育科の授業と評価	池田延行 他	教育出版
外国語科教育	生徒を変えるコミュニケーション活動	松本 茂 他	教育出版
生活科教育	小学校生活科 総合的な学習基礎・基本と学習指導の実例	嶋野道弘 他	東洋館出版社
道徳教育	多様な展開で創る授業モデル 中学校道徳編	七条正典 他	明治図書出版
特別活動	学芸会・音楽会のベストアイデア	宮川八岐 他	明治図書出版
教育工学・視聴覚教育	情報科教育法	岡本敏雄 他	丸善
生徒指導	エンカウンターで進路指導が変わる	片野智治 他	図書文化
幼児教育	子どもの心をつかむ保育者	小田 豊	ひかりのくに
障害児教育	特別支援教育時代～変わる学校～	全国特殊学級設置学校長協会	日本文教出版
社会教育	家庭・学校・地域の連携・融合のすすめ	国立教育会館社会教育研修所	ぎょうせい

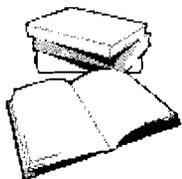
今年はこんな図書を 購入しました

- ・教育改革に関する図書
- ・学習評価に関する図書
- ・総合的な学習の時間に関する図書
- ・各教科の学習活動の事例を集めた図書

実践に役立つ図書を
多数そろえました。
ぜひ、御利用ください。



Pickup!!



観点別
学習状況の
新評価基準表

好評貸し出し中
です!!

新教育課程が完全実施された今年、いろいろな出版社より「新評価基準」が掲載された図書が発行されています。教育センターでは、“評価”や“評価規準（基準）”を取り扱った図書を重点的に整備しました。各学校において、「観点別学習状況」の評価を作成する際、参考にしていただければ幸いです。

シラバスの作成手順と作成例



シラバスの作成手順について

シラバスの語源は、ギリシャ語の sittuba（羊皮紙でできた書籍ラベルまたは表題紙）と言われています。各学校・園においては、子どもたちにどのようなことを学ばせ、どのようなことを評価するかなどを、児童生徒、保護者、地域の人々などに説明するためのいわば「学習計画案内」になります。同様にシラバス・授業参観等を通して寄せられる評価は、教育活動の見直しや授業改善の手だてともなります。

シラバスを作成する際の留意点は次のとおりです。

○シラバス作成のポイント

- 1 学習指導要領や教科等の解説書をよく読んで、児童生徒や保護者、また教師自身にも学習等の様子が分かり、学習の見通しがもてるような内容にします。
- 2 図や絵などを入れて、読みやすく、簡潔にまとめます。

○シラバスの内容例

- 1 教科・科目、領域等の到達目標（児童生徒にどんな力をつけたいかを書きます）
 - 2 指導計画（学習のねらいや学習内容を書きます）
 - 3 評価の観点・方法（教科・科目、領域等の評価規準を基に具体的に何を、どのように評価するのかを書きます）
 - 4 保護者へへのお願い（学習を進めていく上で、保護者の協力が必要な場合、具体的な内容を示して書きます）
- ※ この他に学校・地域の実態に応じて記載内容を検討します。

保護者に向けたシラバスの例（第2学年 生活科）

生活科(第2学年)のシラバスの例

生活科とねらい

- ① 見る、聞く、ふれる、作る、探す、育てる、遊ぶなどの具体的な活動や体験を通して
 - ② 自分と身近な人々、社会、自然とのかかわりに関心をもち
 - ③ 自分自身や自分の生活について考え、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ自立への基礎を養うこと
- を目標とした教科です。

そこで、生活科の学習では…

- 子どもの課題意識や意欲を大切に、自らの思いや願いを実現していく過程を重視します。
- 身近な人々、社会、自然についての気持ちとともに、自分自身の成長も感じることができるよう自己への振り返りを重視します。
- 自立への基礎を養い、3年生からの総合的な学習の時間へつながるようにします。

また、生活科は、子どもの生活圏である地域を学習の対象や場とするため、学校の実態により取り入れる教材は異なります。

本校の生活科は…

- ① 公共施設や商店が多いという学区の特色を生かして、人とかかわりを大切に学習活動を展開します。
- ② 学校に近い〇〇山を活動の拠点として四季を通して自然とかかわる学習活動を展開します。
- ③ 異学年の友だちや学校の近くにある保育園、幼稚園の園児など、いろいろな人と交流を深めるような学習活動を展開します。

生活科の評価は…

○ 生活科は、「生活への関心・意欲・態度」「活動や体験についての思考・表現」「身近な環境や自分についての気付き」の3つの観点で評価します。

- ① **生活への関心・意欲・態度**
生活科は、単に知識を得るだけでなく、生活の中で「生きて働く力」を育成することを目指しています。子どもが身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかわり、楽しく学習しているかどうかという観点から関心・意欲・態度を見ます。
 - ② **活動や体験についての思考・表現**
生活科では、子どもたちは具体的な活動や体験を通して学習を進めますが、その際、活動の中でのいる考えたり、工夫したりして、よりよいものを求めていくことをしっかり評価します。また、伝えたいことをその子なりの方法で表現しようとしているか、そのための技能はどうかということも見ています。
 - ③ **身近な環境や自分についての気付き**
これは、他教科では「知識・理解」して位置付けられているものに近いものです。教えられて受け身的に分かることではなく、具体的な体験や活動を通して、対象と主体的にかかわり、その中で自ら気付き、分かることを重視することから、生活科ではこれを「気付き」と位置付けています。
- 生活科では、長期的な見通しに立ち、継続的に子どもの成長を見取ります。
- 生活科では、「行動の観察」「発言や作品の分析」「学習カード等、低学年児童が可能な自己評価」などをもとにして評価していきます。
- 学習活動の結果を判定するのではなく、子どもの学習の過程を評価し、その後の学習活動に生かすようにします。



第2学年生活科年間計画

月	学習すること	学習のねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなおいでよ ○ 2年生になった抱負や夢を出し合う ○ 1年生をつれて学校紹介や案内をする ○ すてきな〇〇山Ⅰ ○ 春の〇〇山 ○ 町をたんけんしよう ○ 町の探検をする ○ 探検発表会をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年生になった喜びや期待感もち、意欲的に学習や活動しようとする ○ 身近な自然にふれ、それらと自分のかかわりや自然の良さに気付く ○ 興味・関心を持って町を探検し、人、もの、こととふれ、しらなかったことや町のよさを発見したり、いろいろなものに接する喜びを感じることが出来る ○ 春でよい野菜を決め、成長を楽しみにしながら心を込めて世話をすることが出来る ○ 夏の〇〇山の自然にふれ、春の様子との違いに気付く、新しい発見をすることが出来る ○ 生き物の成長や変化を楽しみにしながら大切に世話をし、生き物の成長や生命について考えることが出来る ○ 自分なりに考えながら、夏休みの計画を立てることが出来る
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぐんぐんのびろⅠ ○ 育てたい野菜を決め、大切に世話をし、収穫する ○ すてきな〇〇山Ⅱ ○ 夏の〇〇山を探検する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の中の生き物を探しに出かけ、捕獲し、大切に育てる ○ わくわく夏休み ○ 夏休みの過ごし方を相談し、自分なりのめあてをもつ ○ すてきな〇〇山Ⅲ ○ 秋の〇〇山を探検する
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ ぐんぐんのびろⅡ ○ 育てた野菜を収穫する ○ 種まきをする ○ 町は変わっているかな ○ 秋の町を探検する ○ 幼稚園、保育園の園児と遊ぶ ○ もうすぐ冬休み ○ 冬休みの過ごし方を相談し、自分なりのめあてをもつ ○ すてきな〇〇山Ⅳ ○ 冬の〇〇山を探検する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋の〇〇山の自然にふれ、これまでの季節の様子との違いに気付く、新しい発見をすることが出来る ○ 大切に育ててきた野菜の収穫を喜び、新たな種物を育てようとする気持ちをもつことが出来る ○ 秋の町を探検して、人、もの、こととふれ、新たな発見をしたり、様々な人とかかわり、交流することが出来る ○ 自分なりに考えながら、冬休みの計画を立てることが出来る ○ 冬の〇〇山の自然にふれ、これまでの季節の様子との違いに気付く、新しい発見をすることが出来る ○ 四季の変化に着目しながら、町や〇〇山で見たことや聞いたことなどを、自分なりの方法でまとめ、みんなに伝えることが出来る ○ 自分の成長を振り返り、成長を喜び、とび、その成長を支えてくれた人々に対して、感謝や尊敬の気持ちをもつことが出来る
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ わたしは町はかせ ○ 四季の町や〇〇山の変化や自分たちのかかわりの深まりなどを表現し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 冬への願いや夢を交流し合うことを通して、自分の成長に気付く
8	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんな大きくなったよね ○ じぶんができるようになったことや自慢できることを紹介し合う ○ 小さかった頃からの記録を学習カード、作文などの作品にまとめる ○ しんきゆうだよ、うれしいね ○ 進級への願いや夢を交流し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進級への願いや夢を交流し合うことを通して、自分の成長に気付く
9		
10		
11		
12		

おうちの方へお願い

生活科は、学習の対象や場が子どもの生活圏であり、学習を進める際、直接保護者の皆様にかかわっていただくことや御協力をいただくことが特に必要な教科です。また、生活科の学習で学んだことが、子どもの生活の中で生かされるよう、御家庭でも配慮をお願いいたします。さらに、学習を通して子どもが成長した点をしっかり見ていただき、認め、ほめていただくことも大切です。子どもの成長や変化を感じられた時は、ぜひ担任までお知らせください。

シラバスに関する情報

- ・ 埼玉県立総合教育センター (<http://www.center.spec.ed.jp/>)
- ・ 芸北町立芸北中学校 (<http://www.geihoku-j.hiroshima-c.ed.jp/index.html>)
- ・ 平成14年度 広島県教育資料（広島県教育委員会）



□□□□□ 教育センターひろば □□□□□

研究の協力をお願いしている学校

インターネット等のネットワークを活用した学習指導の在り方やネットワーク提供型の教育用コンテンツの構築等の研究に取り組むため、次の学校にデータの収集や授業実践等の協力をお願いしています。

研究領域	担当者	学校名
情報教育	住吉 磨	似島小学校
		可部南小学校
	水ノ上 俊一	中広中学校 長東中学校

教員長期研修生

(平成14年10月～平成15年3月)
本年度後期は次の7名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

研究部門	名前	所属校・園
社会科教育	三京 弘明	大塚小学校
障害児教育	城 泰子	牛田小学校
教育相談	泊野 亜紀子	観音小学校
国語科教育	紙田 佳江	中広中学校
生徒指導	山村 健一	口田中学校
生徒指導	田中 豊稔	安佐北高等学校
幼稚園教育	川崎 文子	川内幼稚園



編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580
E-mail: edu-center@city.hiroshima.jp
Website: http://www.hcec.ed.jp/

広島市学校教育研究グループ活動奨励事業

(平成14年6月～平成15年3月)
教育センターでは、先生方の研究活動の奨励事業を行っています。本年度は、15グループが次の題目で研究されています。

研究題目及びグループ名
管楽器教育の効果的な指導の在り方 ひろしま小学校管楽器教育研究会
生徒指導の主要な場としての特別活動 －地域とのつながりに視点をおいた児童会活動の工夫－ 竹屋小生活グループ
夢と希望をもち、自ら考え、行動する子どもの育成 －指導法とカリキュラムの改善を通して－ チャレンジ本川キッズ(本川小)
生きる力を育てる算数教育 －算数的活動を通して－ 算数授業研究グループ
総合的な学習の時間に関する教育研究 皆実小学校高学年部会
「国際理解」をめざす学習教材の研究 国際研究部
小学校算数科における複数指導者による学習の研究 アインシュタイン(大町小)
総合的な学習の時間に関する教育研究 可部南小学校研修グループ
主体的に活動できる生徒を育成するための学級経営 中広中学校第1学年
総合的な学習の時間に関する教育研究 総合的な学習の時間研究推進グループ(五日市中)
進路指導と小論文指導を核にした「総合的な学習の時間」の研究 「総合的な学習の時間」研究グループ(舟入高)
自ら学ぶ生徒の育成を目指した「朝の読書」の取組 教育研究部(広島工業高)
「総合的な学習の時間」のカリキュラム編成の研究 「総合的な学習の時間」研究プロジェクトチーム(沼田高)
子どもが絵本を好きになるための月刊絵本活用の効果を探る 福木幼稚園
豊かなことばの感覚を育てる －絵本の読み聞かせを通して－ 上緑井幼稚園絵本読み聞かせ研究会



題字 広島市立宇品中学校長 三高 道裕
表紙絵 広島市立五日市観音小学校教頭 栗栖 恒久

編 集 後 記
実りの秋、皆様方の教育実践が豊かな実りを結びますことを願っております。また、教育センターもお役に立てるように支援していきます。